

Arcserveの統合型バックアップ／リカバリソリューション

Arcserve® Unified Data Protection

仮想・物理を問わず
システムを丸ごと
バックアップしたい方へ

専門知識がなくても
簡単に使える
イメージバックアップソフトを
探している



手間をかけずに
仮想化共通基盤を
バックアップしたい



低コストで
災害対策を実施したい



最新

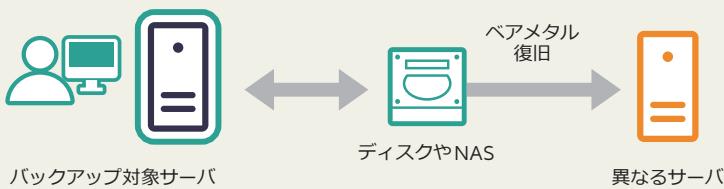
Windows Server 2016 対応

解決策はこちちら

単一サーバから複雑な環境まで、バックアップ

Arcserve Unified Data Protection(UDP)は、Windows や Linuxのスタンダードアロンサーバはもちろん、システム全体をシンプルに管理し、バックアップ／リカバリできます。

単一サーバのバックアップ／リカバリ

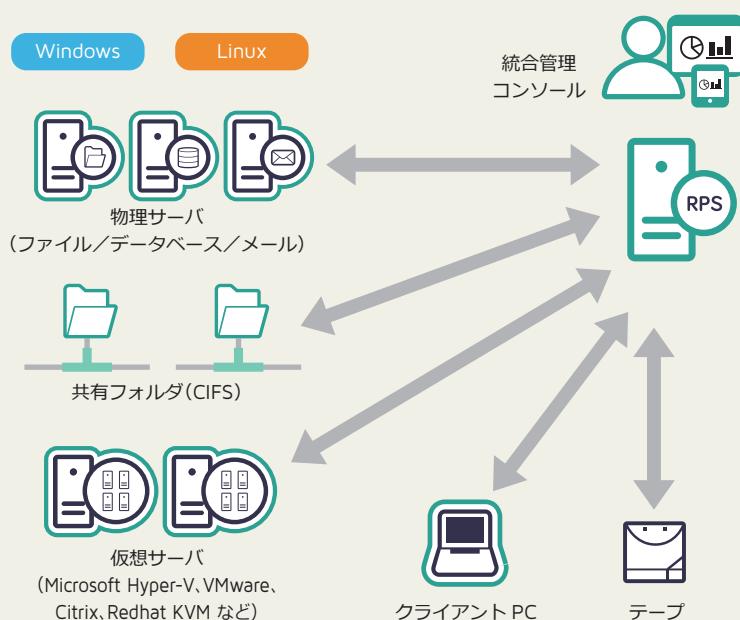


サーバのOS、アプリケーション、データを「丸ごとバックアップ」し、「丸ごと戻す」ことができます。専門知識の無いユーザでも、サーバ1台の小規模環境からバックアップ／リカバリできる簡単さと運用負荷を軽減する高度な機能を標準で備えています。バックアップ対象は、Windowsだけでなく、Linuxにも対応しています。

- 簡易な操作性
- わずか10分の簡単インストール
- 異なるサーバへの丸ごと復旧（ペアメタル復旧）
- Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server、Microsoft SharePoint Server、Oracle Database のオンラインバックアップ
- フォルダ／ファイル単位、データベース単位復旧
- エクスプローラからのリストア

P.4 誰でも手軽に簡単に >

物理・仮想サーバ 混在環境の統合バックアップ／リカバリ



企業内の物理サーバ、仮想サーバ、クライアントPCなど複雑化するシステム環境のバックアップ／リカバリ運用を統合して行うことができます。

対象が多くても統合コンソールから同一の操作性で全てを管理することで、IT管理者の運用負荷を大幅に削減します。

- 物理／仮想サーバの混在環境を一元管理
- Office 365 のバックアップ
- 仮想マシンのエージェントレス バックアップ
- 共有フォルダ(CIFS)のバックアップ
- 仮想マシン単位、ファイル単位リストア
- テープヘコピー

P.4 仮想化基盤の運用をシンプルに >

コンポーネント

要件に併せて3つのコンポーネントを柔軟に配置できます。

エージェント

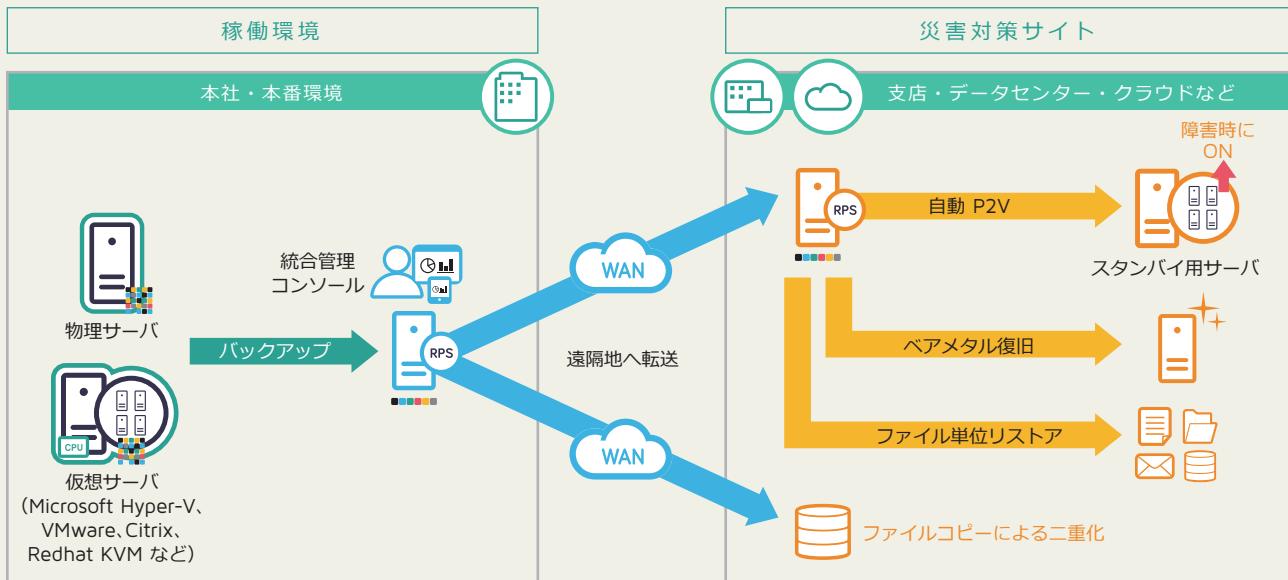
バックアップ対象サーバに導入します。エージェント単体でバックアップの運用管理を行います。

をもっと「手軽」に「シンプル」に。



物理環境、仮想環境、クラウドといった複雑な環境であっても

災害対策サイト／データセンターへのバックアップ／スタンバイ



災害発生時にも企業は業務を止めることができません。Arcserve UDPは、バックアップデータを遠隔地に転送したり、バックアップデータから仮想マシンを自動生成(スタンバイ)させ、リストアするよりも速い業務再開を実現する機能などを標準で搭載しています。さらに、導入が進むクラウドへのファイルコピーやクラウドサーバのバックアップなど、最新の環境にも対応します。

標準機能

- バックアップデータの重複排除
- バックアップデータの転送
- 仮想スタンバイサーバの自動生成
- マルチテナントストレージ機能
- インスタントVM

Premium/Premium Plusエディション

- リアルタイム ファイルサーバ複製
- リアルタイム アプリケーションデータ複製

P.4 業務継続・災害対策の対応 >

P.6 クラウド対応 >

バックアップを
効率化する

復旧ポイントサーバ
(RPS)
で使える機能

復旧ポイントサーバを導入することで、Windows や Linuxなど保護対象が多い環境のバックアップ/リカバリ、および災害対策を効率的に行えます。

復旧ポイント※の保管
(データストア)

※復旧ポイント=バックアップデータ

マージ・カタログ
作成処理の代行

重複排除の管理

RPS 間で
復旧ポイントの転送

統合管理コンソール(サーバ)



複数台の保護対象(サーバ/クライアントPC)のバックアップ/リカバリやエージェントレスのバックアップの統合管理を行うことができます。また、復旧ポイントサーバ(RPS)を管理します。

復旧ポイントサーバ(RPS)



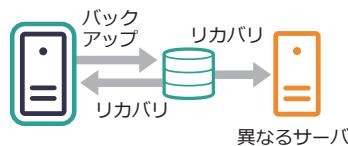
バックアップデータの格納庫として重複排除や遠隔転送などを行います。



誰でも
手軽に、簡単に

丸ごととて、丸ごと戻す

消してしまったファイルも
エクスプローラから簡単にリストア



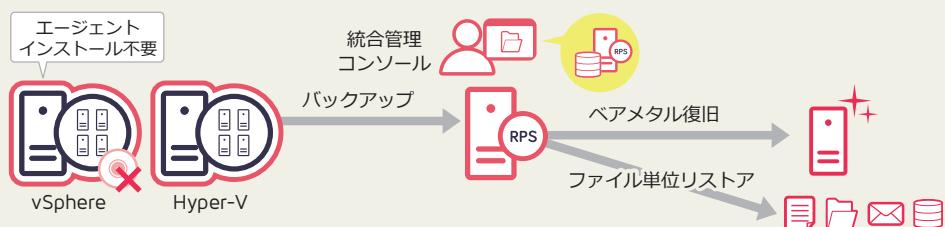
OS、アプリケーション、データとシステム全体を簡単に「丸ごととて」、「丸ごと元に戻す」ことが可能です。専門的な知識や特別な設定は一切必要ありません。

ファイル・フォルダ単位でリストアする機能も備えています。慣れ親しんだエクスプローラ画面で、ドラッグ & ドロップするだけで誰でもデータを簡単に戻せます。



仮想化基盤の
運用をシンプルに

仮想化基盤側で設定が完了
エージェントレス・バックアップ



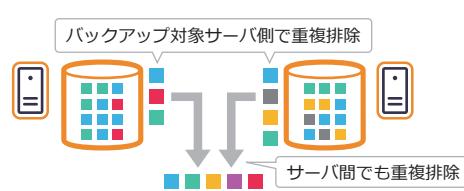
VMware vSphere 環境でも、Microsoft Hyper-V 環境でも、Windows と Linux の仮想マシンにエージェントを導入することなく、バックアップが行えます。エージェントレスでありながら、継続的な増分バックアップや仮想マシンの中にあるファイルやフォルダをリストアすることができます。



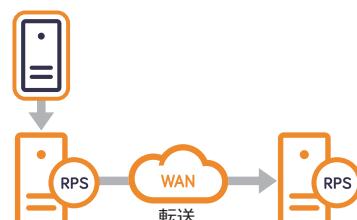
業務継続
災害対策

バックアップデータの
重複排除

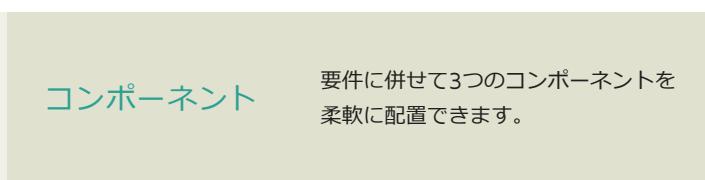
バックアップデータの
遠隔転送



バックアップ対象サーバ(エージェント)側で重複を排除してバックアップします。さらにエージェント間でも重複が排除されます。バックアップデータ用のディスク使用量を大幅に削減することができます。

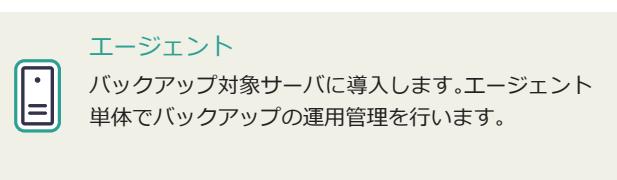


標準でバックアップデータの転送機能が備わっています。特別なコンポーネントは不要で、大切なデータを日時指定して遠隔転送が可能です。



コンポーネント

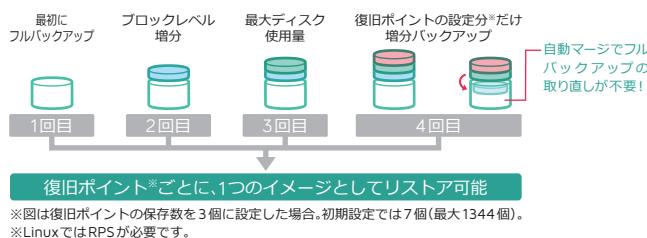
要件に併せて3つのコンポーネントを柔軟に配置できます。



エージェント

バックアップ対象サーバに導入します。エージェント単体でバックアップの運用管理を行います。

フルバックアップは初回のみ 継続的な増分バックアップ



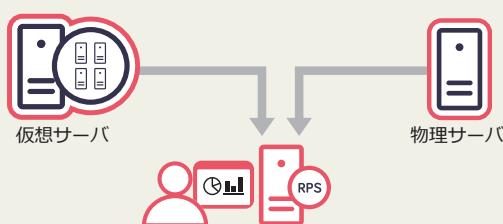
初回のフルバックアップ以降は、変更ブロックのみを増分バックアップし続けることでバックアップデータを削減し、バックアップ時間を短縮します。設定した世代数を超えると一番古い増分バックアップとフルバックアップを自動的に合成(マージ)するので、フルバックアップの取り直しが必要ありません。

バックアップデータの復旧テスト



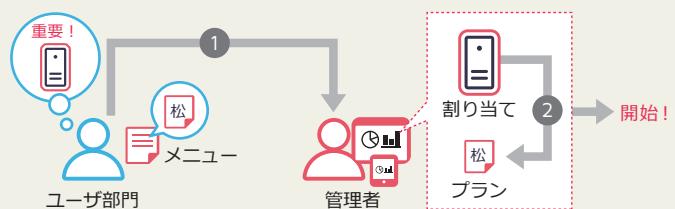
バックアップ完了後、復旧ポイント(バックアップデータ)で復旧テストを実行します。このテストは、インスタントVMの起動確認、または復旧ポイントをマウントしたファイルシステムの健全性確認の2種類から選択できます。また、転送先でもテストを行うことができます。

仮想も物理も統合管理



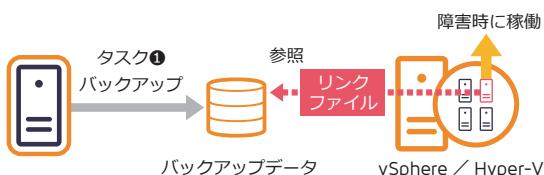
仮想環境だけでなく、物理環境ももちろん統合してバックアップできます。さらに物理サーバと仮想マシンのバックアップをすべて同じ画面で管理できる点も Arcserve UDP の強みです。

バックアッププランのテンプレート化で 運用管理の負荷を軽減



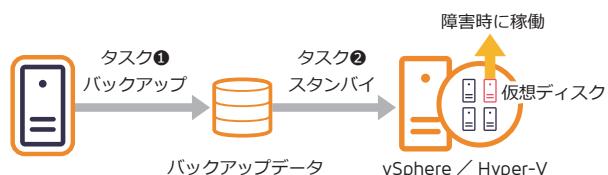
バックアップ方法をあらかじめメニュー化しておくことでシステムごとに要件を定めて設計する手間がなくなります。ユーザ部門に、システムの重要性に合わせてプランを選択してもらい、あとは対象システムを選択されたプランに割り当てるだけでバックアップが開始できます。

障害発生時にリカバリ不要で 業務を素早く再開



障害発生時に「インスタンストVM」を作成することで、仮想マシン経由でバックアップデータを参照して一時的に業務を再開することができます。リストアの時間を短縮できるためビジネスの機会損失を回避します。リモートへインスタンストVMする場合は、RPSが必要です。

スタンバイサーバを使って 業務を迅速に再開



バックアッププランにて、あらかじめスタンバイ用の仮想基盤上にリストアしておきます。本番サーバに障害が発生したときには、仮想マシンを起動するだけで代替運用が可能です。スタンバイ用の仮想基盤を設定すれば災害時の継続運用も行えます。リモートへ仮想スタンバイする場合は、RPSが必要です。※Windows環境でご利用いただけます。

統合管理コンソール(サーバ)



複数台の保護対象(サーバ/クライアントPC)のバックアップ/リカバリやエージェントレスのバックアップの統合管理を行なうことができます。また、復旧ポイントサーバ(RPS)を管理します。

復旧ポイントサーバ(RPS)



バックアップデータの格納庫として重複排除や遠隔転送などを行います。

クラウド対応

クラウドへ復旧ポイント コピー/ファイルコピー



復旧ポイントをクラウドへコピーやバックアップデータからファイルを抽出してコピーできます。

クラウド上の仮想マシンをバックアップ



すべての仮想マシンにエージェントを導入してバックアップすることができます。またバックアップデータの転送先として利用できます。

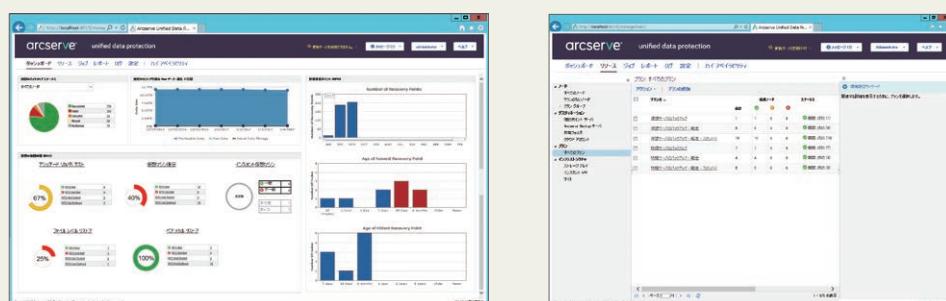
クラウド サーバ上への仮想スタンバイ



Amazon EC2 上の仮想マシンへスタンバイが作成できます。パブリック クラウドを使用した可用性が実現できます。また、バックアップ環境をオンプレミスから Amazon EC2 へ簡単に移行することができます。

分かりやすい インターフェイス

IT管理者の運用負荷を軽減



初心者でも使える管理画面になっています。さらに、仮想/物理、Windows/Linuxを同じ画面で管理できる統合管理コンソールやレポートで大規模環境のIT管理者も強力にサポートします。いずれの画面もWEBインターフェイスなので、操作する場所を選ばないこともポイントです。

> その他の豊富な機能

ハードウェア スナップショット	ストレージと連携して作成したスナップショットを SAN 経由でバックアップします。これにより LAN フリーで高速なバックアップを実現します。
コマンドライン インターフェース	ジョブの実行、監視を行う運用管理ツールとの連携を容易にします。コマンドからバックアップ/リストアなどを実行できるため、ジョブネットに組み込んでシステム運用の一部としてバックアップを管理できます。
スケジュール設定	日次・週次・月次での設定はもちろん、指定曜日の除外といったバックアップスケジュールの柔軟な設定が可能です。
バックアップデータの暗号化	AES256／196／128ビットでバックアップデータを暗号化できます。これによりデータを安全に保管します。
アシュアード リカバリ プラン	バックアップ完了後にその復旧ポイント(バックアップデータ)で復旧テストを実行し、データの整合性を確認します。インスタント仮想マシンの起動確認、または復旧ポイントのディスク チェックが可能です。
HA環境への対応	Microsoft Hyper-V、Microsoft SQL の AlwaysOn、Microsoft Exchange Server の DAG 環境のサポート
Arcserve Replication／High Availability の統合管理	Arcserve Replication／HA の持つレプリケーションおよびスイッチオーバーを Arcserve UDP で管理できます。
役割ベースの管理	ユーザごとに管理権限を設定可能です。環境設定やバックアッププラン、ノード、データストア、リストア、ライセンス、レポート等へのアクセスを役割や組織ごとにコントロールできます。

> Arcserve UDP ライセンス一覧 (含まれる機能一覧)

バックアップ要件	エディション			クライアント用 エディション	Appliance	利用 コンポーネント
	Advanced	Premium	Premium Plus			
イメージバックアップ / 共有フォルダ(CIFS)のバックアップ	✓	✓	✓	✓	✓	
重複排除	✓	✓	✓	✓	✓	
統合管理	✓	✓	✓	✓	✓	
バックアップデータの転送	✓	✓	✓	✓	✓	
仮想マシンのエージェントレスバックアップ	✓	✓	✓	✓	✓	
バックアップ データのテープ保管	✓	✓	✓	✓	✓	Arcserve UDP
仮想スタンバイ	✓	✓	✓	✓	✓	
インスタント VM	✓	✓	✓		✓	
AWS EC2 に対する仮想スタンバイとインスタントVM	✓	✓	✓		✓	
VSSライターを利用したオンライン バックアップ ^{※1}	✓	✓	✓		✓	
ストレージのハードウェア スナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / NIMBLE)	✓	✓	✓		オプション	
アシュアード リカバリとSLAレポート	✓	✓			オプション	
役割ベースの管理	✓	✓				
Oracle RMAN 方式 / Dominoのオンラインバックアップ	✓	✓				Arcserve Backup
Arcserve Backup 全機能 ^{※2}	✓	✓				
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製	✓	✓				
Arcserve Replication アプリケーション サーバのデータ複製 ^{※2}		✓				Arcserve Replication/HA
Arcserve High Availability ファイル/アプリケーション サーバの自動切替 ^{※2}		✓				

※1 Office 365の保護には、別途サブスクリプション(10ユーザー1年メンテナンス含む)を提供しています。 ※2 日本でサポートされている機能・動作要件が対象です

> ライセンスの考え方

課金の対象となるのは、バックアップ対象のみです。バックアップ対象数またはバックアップ対象サーバのソケット数でライセンスを適用します。コンソールおよび Recovery Point Server(RPS:復旧ポイントサーバ)のライセンスは、不要です。



> ライセンスの種類



サーバ台数

保護対象の物理サーバの台数分で課金されるライセンス体系です。
物理環境専用のライセンスです。



CPUソケット数

保護対象サーバで利用されているCPUソケット数分で課金されるライセンス体系です。
物理・仮想環境に対応しています。



データ容量

保護対象サーバの総データ容量で課金されるライセンス体系です。

> 価格

本価格表以外にアカデミックライセンスのご用意があります。また、4年、5年保守をご要望のお客様は別途お問合せ下さい。

エディション ^{*1}	サーバ単位(Server)		ソケット単位(Socket)	
	ライセンス+メンテナンス1年	ライセンス+メンテナンス3年	ライセンス+メンテナンス1年	ライセンス+メンテナンス3年
Advanced Edition	¥100,000	¥134,000	¥100,000	¥134,000
Premium Edition	—	—	¥200,000	¥268,000
Premium Plus Edition	—	—	¥300,000	¥400,000

エディション ^{*1}	容量単位(1TB単位) ^{*2}		Office 365用製品 サブスクリプション 10ユーザ	ライセンス+メンテナンス1年 ¥50,000
	ライセンス+メンテナンス1年	ライセンス+メンテナンス3年		
Advanced Edition	¥615,000	¥821,000		
Premium Edition	¥1,024,000	¥1,366,000		
Premium Plus Edition	¥1,797,000	¥2,397,000		

クライアントPC用製品 ^{*1}	ライセンス+メンテナンス1年	ライセンス+メンテナンス3年	メディアキット ^{*3} ¥5,000
Workstation Edition 1本	¥10,000	¥13,200	
Workstation Edition 5本	¥40,000	¥54,000	

※1 新規購入の際、ライセンスおよびメンテナンスの購入が必要です。詳細は弊社Webサイトをご覧ください。

※2 バックアップ(または複製)対象の総データ量に対して課金されるライセンスです。本価格は、1TB(テラバイト)に対するライセンス金額です。

※3 ライセンスプログラムで購入した製品をインストールするためのメディアです。

ライセンスプログラムを初めてご購入いただく際はメディアキットをご購入いただかず、もしくはモジュールをWebからダウンロードしてご利用ください。

> 製品詳細は弊社WEBサイトをご覧ください。 <https://www.arcserve.com/jp/>

> 製品の無償ダウンロードは、こちらから。 <https://www.arcserve.com/jp/free-trial-selection/>



すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright © 2019 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

お問い合わせ窓口 : Arcserve ジャパン ダイレクト (0120-410-116)

JapanDirect@arcserve.com

WEBサイト : www.arcserve.com/jp

※記載事項は変更になる場合がございます。 2019年1月現在